

令和 7 年度

「運営に関する計画」  
最終評価



大阪市立平林小学校

令和 8 年 3 月 2 日

学校協議会



＜ 学校組織目標 ＞

他者を尊重し、自分で考え解決できる、創造性に富む子どもの育成

＜ 学校運営の具体的な行動手段 ＞

チーム学校・教科担任制・地域に開かれたカリキュラム

【 課題の概要と重点目標 】 チーム学校の組織づくりを持続可能にする

① 基本的な生活規律の確立 (安全・安心な教育の推進のめあて「あいさつ」「時間」「掃除」)

**あいさつや言葉遣いに重点をおいた指導** ルールを守る大切さを朝会や学級等で注意喚起  
・朝の登校指導, あいさつ週間の指導, 児童会活動「あいさつ運動」, 学級での取り組み  
・看護当番体制や登下校見守り週間 登校時や休憩時間の過ごし方を各学級活動で徹底  
・言葉遣いで, 相手を傷つける言葉遣いが原因で, トラブルやいじめ事案につながる事例  
**安全・安心な指導体制** ルールを守り規範意識を育成してきた規律を持続可能にする  
・家庭環境等で遅刻をする児童に「時間を守る」大切さの指導と「自立」を促す等の支援  
・民生委員や区役所子育て支援室と連携を密にし, 行政と協働した保護者への細かな支援  
・「学校安心ルール」に基づき, 児童理解と保護者への連絡を最優先にした指導体制  
**道徳の授業や人権教育の充実** 命の大切さを学び, 児童の自己肯定感や自尊感情を醸成  
・たてわり班活動で高学年の持つ潜在能力とリーダーシップを発揮・相手を思いやる心  
**校内美化・環境整備** 運動場の芝生や学習園の整備, 教室環境の改善など学習環境の整備  
・児童会「たてわり清掃」・学校を大切に思い, ものを大切に扱う気持ちを育てる

② 教科等横断的な視点でカリキュラムを充実 (未来を切り拓く学力・体力の向上)

**児童につけたい「力」を明確に示す** 教科等横断的な「独自のカリキュラム」を年間で実施  
・情報活用能力や言語能力などの「非認知能力」として児童の持つ潜在能力を引き出す  
・年間を通して10年先の予測困難な社会で通用する「生きて働く力」を身につけさせる  
**「主体的・対話的で深い学び」の授業改善** 「できた・わかった」と実感できる授業づくり  
・重点支援校4年目, 授業支援・学力分析・研修会・SAの支援等での授業力の向上  
・メンター研修会の実施・学びコラボレーター支援によるテクニカルスキルの向上  
**高学年への教科担任制の導入** 教科担任・特別支援担当・学習サポーターによる協働体制  
・きめ細かな指導を実施し, どの児童に対しても等しく指導ができるように連携を工夫  
・「個別最適な学び」等, 児童が安心して学習できる授業形態の工夫や環境の整備  
**基本的な学習習慣の定着** 週2回の英語・週1回の読書タイム・漢字検定の実施  
**家庭学習の習慣化** 毎日の宿題の習慣化と点検 学校だよりや懇談を通じて推進  
**年間を通じた運動能力向上のための取り組み** なわとび週間・かけあし週間など  
**健康・衛生面の意識の向上** 「手洗いがんばり週間」 給食食育指導で保護者へ啓発

③ ICT機器の積極的な活用による教育DXの推進 (学びを支える教育環境の充実)

**学習者用端末・デジタル教科書等を活用** 全校でICT機器の充実や校内研修を進める  
**しなやかな組織づくり** 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を増やす  
・本市「働き方改革推進プラン」の教員の勤務時間に関する基準を満たす職場環境づくり  
**読書活動の充実** 読書ノートの活用と新聞に触れる機会の充実  
・学期に1回の学級図書貸出, 図書新聞委員会による読書ノート目標冊数の向上  
**さざんか平林協議会と協働してカリキュラムをつくる** PTA組織のネットワークづくり  
・保護者参加型の企画を「総合的な学習の時間」で実施  
**地域・行政との連携** 花ボラ活動・人権の花・読み聞かせ・踊りの練習・地域清掃など

大阪市立平林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標（最終年度）

令和7年度学校運営の具体的行動として「チーム学校×教科担任制×地域に開かれたカリキュラム」に設定し、教職員がめざす学校組織目標「他者を尊重し、自分で考え解決できる、創造性に富む子どもの育成」、児童がめざす学校教育目標「全学年仲良く明るく楽しく、勉強も遊びも全力で取り組む学校」を掲げ、めざす学校像「夢や希望を持ち、たのしく学び、遊び、語りあえる学校」、めざす子ども像「やる気のある子」「やりとおす子」「たすけあう子」を基盤とした運営を実施する。

「生活規律の徹底」をめざし、今年度も「挨拶」「時間」「掃除」の3点をめあてとする。児童の課題を把握し、生活規律向上のための行動支援について工夫・深化・充実させる。

**現状と課題**

**【安全・安心な教育の推進】**

- ① 基本的な生活規律の確立のため、あいさつや言葉遣いに重点を置いた指導を行っている。朝の登校指導や「あいさつ週間」の指導、児童会活動の「あいさつ運動」、各学級での取り組みにより、一人ひとりの児童に心を込めてあいさつをすることへの意識が高まり、主体的にあいさつができるようになってきている。また、言葉遣いについては、多くの子どもたちがその場にあった話し方ができるようになってきている。一方で、相手を傷つける言葉遣いが原因で、トラブルやいじめ事案につながる事例もある。あいさつの励行や相手の気持ちを考えた正しい言葉遣いについては、全校朝会や学級経営を通じて、注意喚起していくことを継続的に進める必要がある。
- ② 安全・安心な学校生活を過ごすために、ルールを守ることの大切さを丁寧に指導し、規範意識の育成に努めてきた。その結果、チャイムの合図や遊びのルール等については、多くの児童がルールを守ることができている。家庭環境等により登校時刻を守れない児童には「時間を守る」ことの大切さに触れ、児童の自立を促すなどの支援を進めている。保護者への支援が必要な家庭には、民生委員や区役所と連携を密にし、学校と行政が協働してサポートを行う必要がある。
- ③ 「たてわり班活動」で、児童集会、清掃、学校行事などの特別活動に取り組むことで、異学年交流が深まり、相手を思いやる心の育成が図れている。「たてわり班活動」を行うことで、高学年の児童の持つ潜在能力とリーダーシップが発揮できる機会を創り出す。また、道徳の時間を中心に一人一人の違いを認め、互いの人権を尊重することの大切さを学ばせてきた。その結果、いじめや仲間外れについて、より深く考える児童が増えている。道徳教育や人権教育の充実を図り、命の大切さを学び、自己肯定感や自尊感情の醸成をめざす。
- ④ 運動場の芝生や学習園の整備、教室環境の改善など学習環境の整備に努めるとともに、児童が校内美化に関心を持ち、協力して学校を美しくしようとする態度を育てる。そのために、普段の清掃活動以外で健康環境委員会が主体的に「たてわり清掃」を実施している。校内美化・環境整備について、継続して行うことで、自分の学校を大切に思い、ものを大切に扱おうとする気持ちを育てる。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 授業での思考力・判断力・表現力の習得とともに、情報活用能力や言語能力などの「非認知能力」として児童のもつ潜在能力を引き出し、児童に10年先の予測困難な社会で通用する「生きて働く力」を身に付けさせる必要がある。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善や指導の工夫等の研究を行っている。本市の重点支援校5年目にあたり、授業支援・学力調査分析・研修会、メンター研修会、スクールアドバイザー・学びコラボレーターの支援等、本市や各団体主催の研修会を活用しながら、若手や教員全体の資質・能力の向上に努める。児童が「できた・わかった」と実感できる授業づくりができるよう研修のしくみを充実・発展させる。
- ③ 児童数20名前後の少人数授業の実施を「強み」として、学級担任・特別支援担当・学びサポーター・特別支援サポーターによるきめ細かな指導ができていて、「チーム学校」としての協働した授業づくりを進め、どの児童に対しても等しく指導ができるように、個別の児童の連携を工夫している。また、「個別最適な学び」を必要とする児童に対しては、安心して学習できる工夫や整備を行う必要がある。
- ④ 毎週の朝学習による基本的な学習習慣の定着や教科担任制等の指導形態の工夫に努め、学習内容の充実を図っている。小学校学力経年調査においては、昨年同様、本市平均を前後する結果となり、学力に安定感が感じられる。しかし、国語・社会・算数が本市平均を下回っている学年もあるため、繰り返し学習や個に応じた学習等を充実させる必要がある。
- ⑤ 体験的活動や言語活動を積極的に取り入れた授業づくりを行うことで、興味関心を喚起させ、その中で「発表する力や書く力、集団で活動する力」を身につけさせるように取り組んできた。また、「ハンドサイン」や「話型」の発表等を活用した指導やグループ工夫を行った結果、多くの児童がしっかりと発表できるようになってきている。引き続き、活発な発表や内容の充実を図ることで、学びを充実させる必要がある。
- ⑥ 家庭学習の習慣化をめざし、毎日の宿題の習慣化と点検、保護者に学校だよりや懇談を通じて推進している。家庭で復習や他の勉強をする児童は59.5%(思う39.6%)で、7月の71.5%(思う49.0%)から10%減少した。学校HPなどを有効活用し、保護者がより学校教育活動に関心を持ち、家庭学習の大切さに関する啓発や呼びかけを行う必要がある。
- ⑦ なわとび週間やかけあし週間、学級単位の「みんな遊び」の取り組みや「遊具の改善や新たな運動用具の学級配付」など、運動能力向上のための取り組みにより、多くの児童が外へ出て身体を動かすようになってきており、健康・体力の保持増進を図る生活態度が身につけている。昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において新6年男女で握力や上体起こしに加え、50m走やシャトルランなど全国・市平均を上回ることができたが、長座体前屈や立ち幅とびで課題がある。ネットや家庭環境等により、運動の機会が少ない児童も見られ、運動環境の整備や年間を通じた体力向上をめざし、実施時期や内容に、工夫を加えて取り組む必要がある。
- ⑧ 定期的に行う「手洗いがんばり週間」などを実施することにより、健康・衛生面の意識が向上している。栄養指導や日々の給食指導で、食への関心が高まり給食のおかずを残さず食べるようになってきた。朝食抜きの児童に対して指導し、家庭への啓発を行う。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ① ICT 機器(学習者用端末・教職員用端末・大型テレビ等)・デジタル教科書などを有効活用した「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業研究を学校全体で取り組み、わかりやすい授業づくりに努めている。また、デジタル教科書を用いた授業や発表ノートやグループワークを取り入れた授業、調べ学習などで学習者用端末を活用することで、学習者用端末が児童にとって必要なツールとして定着している。本年度も学習者用端末で、考えをまとめたり発表をしたりする授業場面を増やす必要がある。
- ② ゆとりの日を週 1 回設け、定時退勤を促すこと、学校閉庁日を設定すること、行事の見直しや会議の精選を行うことで、長時間勤務の解消を図ってきた。引き続き、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を増やし、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準を満たす教員の割合を増やす。一方で、持ち帰っての業務を行う教職員もいて、学校内での勤務時間の縮減だけでなく、業務を見直すことも検討を行う必要がある。
- ③ 地域の図書館より、学期に 1 回の学級図書の貸し出しを行い、図書新聞委員会発行の読書ノートを活用し、読書活動の充実に努めている。読書が楽しみな児童は 79.6% (思う 51.3%) で、読書ノートの目標とする冊数に届く児童は少なく、新聞を読む児童も全国学力・学習状況調査では全国平均を下回っている。
- ④ さざんか平林協議会と協働してカリキュラム連携を推進してきている。地域や行政などの社会関係資本を活用し、PTA を巻き込んで地域が企画する取り組みを「総合的な学習の時間」等のカリキュラムとして学校に組み込み、学校と保護者・地域・行政とのコミュニティづくりの中で、豊かな人間性と人権感覚を育む。
- ⑤ 花ボラ活動・人権の花・読み聞かせ・地域清掃活動など、保護者・地域とも連携した取り組みを行い、学校教育活動を地域・保護者に公開している。学校 HP を活用し情報発信に努めてきた結果、閲覧件数も大幅に増え、地域・保護者にも浸透しつつある。今後も一層の情報発信に努めるとともに、児童の健全育成のために行政や平林地域、こども園・保育所・隣接の小中高等学校との連携を深める。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

○令和 7 年度末の児童校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的にと答える児童の割合を 90%以上にする。また、「すすんであいさつをしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。

(基本的な方向 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合を 90%以上にする。

(基本的な方向 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

○令和 7 年度末の児童校内調査における「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目について、肯定的に答える児童の割合をともに 92%以上にする。また、令和 7 年度末の児童校内調査における「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、肯定的に答える児童の割合をともに 92%以上にする。

(基本的な方向 2 豊かな心の育成)

### **【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

○令和7年度全国学力・学習状況調査において、国語と算数の正答率をともに対全国比89%以上にする。また、令和7年度の小学校学力経年調査4教科合計を対象に、全ての学年で対市100以上にするとともに、国語において1学年以上で、算数において2学年以上で大阪市平均またはそれを上回るようにする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○漢字検定(3~6年)の合格率をともに72%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「できている(どちらかといえばできている)」と答える児童の割合を72%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○令和7年度末の児童校内調査における「家庭で復習やほかの勉強している」の項目について、肯定的回答の割合を60%以上に、保護者校内調査における「家庭で復習やほかの勉強をする習慣が身につけている」の項目について、肯定的回答の割合を60%以上にする。

(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比の割合を1以上にする。(基本的な方向5 健やかな体の育成)

○令和7年度末の児童校内調査における「すききらいせず食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答を85%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

○令和7年度末の児童校内調査における「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いをしっかりするなど、健康に気を付けている」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

### **【学びを支える教育環境の充実】**

○令和7年度末の児童校内調査における「学校の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする(基本的な方向6 教育DXの推進)。また、「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を80%以上にする。

(基本的な方向8 生涯学習の支援)

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。教員の勤務時間に関する基準の月45時間・年間360時間を超えない教員の割合を95%以上にする。

(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

○令和7年度末の保護者校内調査における「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を90%以上にする。また、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を96%以上にする。

(基本的な方向9 家庭・地域と連携・共同した教育の推進)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（◎R7 全市共通目標から 2 つ以上設定）

### 【安全・安心な教育の推進】

- ◎小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ◎年度末の校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。
- ◎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 令和 7 年度末の児童校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- 令和 7 年度末の児童校内調査における「すすんであいさつしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 令和 7 年度末の児童校内調査における「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。
- 令和 7 年度末の児童校内調査における「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ◎小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる
- ◎小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる
- ◎小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 41%以上にさせる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ◎授業日において児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の 70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- ◎年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 95%以上にする。
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 95%以上にする。
- 学習者用端末を活用した家庭学習を週 1 回以上実施する。
- 令和 7 年度末の保護者校内調査における「学校は、教育方針や教育活動について情報発信に つとめている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を 96%以上にする。また、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を 96%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

○総括：全市共通目標，学校の年度目標はおおむね達成できた。

・いじめや暴力行為の未然防止に向けては，毎月のスクリーニング会議を通じて，教職員で児童に関する情報を共有し，児童の課題や家庭環境を把握するとともに，同じ姿勢・方向性で指導や保護者対応に当たることができた。また，必要に応じてケース会議を開き関係諸機関と協働して課題の解決に当たった。

・不登校については，迅速に保護者や関係諸機関と密に連絡をとり，個別に丁寧な対応することで，安全・安心できる学校づくりにつながられている。

・令和7年度末の児童校内調査における「すすんであいさつしている」の項目について，肯定的に回答する児童の割合は91.6%で，目標の85%を上回った。児童会を中心にあいさつ運動に取り組み，成果が見られた。月2回のあいさつ運動では，毎月担当学年の児童が進んであいさつに取り組むことができた。また，教職員が率先してあいさつする姿を示したことも成果の一つといえる。

・令和7年度末の児童校内調査における「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について，肯定的に回答する児童の割合は94.4%で，目標の92%を上回った。命の大切さや人権について考える授業を教科横断的な取り組みを通して，さまざまな場面で実施してきた。児童の道徳心や社会性の育成については，個人差が見られ，場面に応じた適切な言動が十分に定着していない状況がある。継続的な指導と体験的な学習の充実が課題である。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○総括：全市共通目標，学校の年度目標について未来を切り拓く学力・体力の向上に向けて取り組んだが年度目標を達成できなかった。

・個別の多様な課題をもつ児童の個性を互いに認めながら，教員の支援（伴走）のもと，教師が型にはめるのではなく，一人ひとりの児童が集団の中で学習規律を生み出しながら，友達と話合うなどの協働的な学びが実現できている。

・授業は，基本的に教科担任・特別支援担当・学習サポーターの3者が協働して授業づくりを進めている。その特徴は，同じアセスメントに基づき，適切な距離感を持ちながら寄り添った支援をすることで，児童が自分のペースで学習できるような学びが実現できている。

・組織の特徴は，学級担任と教科担任の業務を分離し，すべてを抱え込まない体制づくりに取り組んできた。また，学級担任の持つ能力を發揮したマネジメントにより，児童が安心して楽しく学習ができています。しかし，学年や校務分掌等によって業務量に格差があり，教職員がカリキュラムマネジメントを進めながら合意形成のもと業務改善を進めていく必要がある。

・学びコラボレーターを中心とした放課後学習やメンター研修会など昨年度から継続して取り組むことで，基礎的基本的な学力の向上を図ることができた。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

○総括：全市共通目標，学校の年度目標について学びを支える教育環境の充実に向けて取り組んだが年度目標を達成できなかった。

・「地域に開かれたカリキュラム」をテーマに掲げ，教頭，教務主任，地域代表，はぐくみネットが企画運営をし，ひらこや，盆踊り練習会，ハロウィン，お茶会など，学校・地域が

協働してカリキュラムマネジメントを進める中で、保護者を地域の運営スタッフに加えるなど、コミュニティづくりに大きな効果をもたらしている。地域が持つ力を学校教育と上手くジョイントできていることが、貧困や虐待の中で生きる児童や保護者の居場所づくりに、大きな役割を果たしている。

・外部人材を積極的に活用し、出前授業や体験的活動を取り入れた授業づくりを行った。また、研究をデジタル教科書やタブレットを活用した授業に焦点化し ICT 機器の積極的な活用に取り組んできた。その結果、「学校の授業はわかりやすい」の項目で肯定的に回答する児童の割合が 89.2%となったが、目標の 90%を 0.8%下回る結果となった。

・年次有給休暇を 10 日以上取得する教員の割合は 86%であり、目標の 95%を 9%下回っている。引き続き、職場の安全衛生を率先して推進し、年次有給休暇を 10 日以上取得できるようにしていく。

・教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合は 93%であり、目標の 95%を 2%下回った。引き続き、教職員のワークライフバランスの充実を図り、時間年次休暇を取ったりして時間外勤務を減らすことができるようにしていく。

・来年度以降も「地域の子ども・地域の学校」を念頭に「社会に開かれたカリキュラム」を協働する作業を通じて、地域の皆様と繋がる機会を創出する。今後も学校・保護者・地域がつながりを深め、三位一体となって安心して成長できる安全な学校の実現に努める。

## 大阪市立平林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>年度目標</b> ※再掲</p> <p>◎小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>◎年度末の校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>◎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>◎令和7年度末の児童校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>◎令和7年度末の児童校内調査における「すすんであいさつしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>◎令和7年度末の児童校内調査における「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。</p> <p>◎令和7年度末の児童校内調査における「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○あいさつ運動においては、児童会を中心に正しいあいさつの見本を見せることで、校内の啓発を図る。また、あいさつができたかどうかの振り返りをさせることで、意識を向上させる。</p> <p>○基本的な生活習慣の確立に関しては、すすんであいさつをすることができるように学校・学年・生活だより学校HP等で保護者への啓発を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○児童会を中心とした全校をあげた「あいさつ運動」を月1回以上実施し、振り返りを行う。</p> <p>○生活だよりを年10回以上発行したり、あいさつ運動の様子などをHPに掲載したりするなどして、基本的な生活習慣について保護者への啓発を図る。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○思いやりの気持ちを育むために、学校行事の様々な場面において、他学年との交流を充実させる。</p> <p>○ペア学年や異学年交流の場を学期に1回以上設定し、上級生としての自覚をもたせる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○たてわり班での活動を月に2回以上行う。</p> <p>○学期末にたてわり班で大掃除を行う。</p>	B

○道徳科の学習において、「主として人との関わりに関すること」についての学習を学期に1回行う。	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○道徳心や社会性を高めるために、道徳科の学習を教科横断的に取り組み、命の大切さや人権について考える機会をつくる。</p> <p>○人権・平和学習を通して、命の大切さや人権について考える時間をつくり、道徳心や社会性を高める。</p>	
<p>指標</p> <p>○学校全体で命の大切さや人権について考える機会として、年に1回以上人権学習週間を設定する。</p> <p>○学校の教育方針を示したお便り（学校だより）を毎月発行する。</p> <p>○令和7年度末の児童アンケートにおける「学校では、命の大切さについて学んでいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>【年度目標の達成状況】</b></p> <p><b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】について</b></p> <p>児童会を中心に、11月まで「あいさつ運動」に取り組むことができた。月2回のあいさつ運動では、毎月担当学年の児童が進んであいさつに取り組むことができた。児童アンケート「進んであいさつをしていますか」の項目では、肯定的な回答が91.6%と、目標の90%を上回る結果となった。</p> <p>3学期には、次年度を見据え、あいさつ運動に替わる活動を代表委員会の児童と話し合い、「ありがとうを伝え隊」の取り組みを始めた。</p> <p>あいさつ運動の取り組みを月に2回HPに掲載し、活動の様子やねらいを積極的に発信してきた。また、生活だよりを月1回発行し、学校のきまりやSNSの問題についても保護者に発信し、子どもの抱える問題についても伝えてきた。その結果、保護者にも本校の取り組みに理解を示してもらえるようになった。</p> <p><b>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】について</b></p> <p>各学年では、いじめアンケートや日々の児童への聞き取りなど進んで行き、トラブルを早急に解決してきた。児童アンケート「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしていますか」の項目では、肯定的な回答をする児童の割合は、94.8%と1学期よりもさらに高い数値となっている。</p> <p>その要因として集会活動におけるたて割り班活動の活発化や異学年交流の充実が考えられる。集会のみならず、全校遠足、たてわり班活動、ペア学年などでも異学年交流を行ってきた。これらの取り組みを通して、上級生が下級生を思いやる姿や、互いに支え合う関係が育まれてきていると考える。</p> <p><b>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】について</b></p> <p>命の大切さや人権について考える授業を教科横断的な取り組みを通して、さまざまな場面で実施してきた。児童の道徳心や社会性の育成については、個人差が見られ、場面に応じた適切な言動が十分に定着していない状況がある。継続的な指導と体験的な学習の充実が課題である。児童アンケート「学校では、命の大切さについて学んでいる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は94.4%と目標の90%を上回った。</p>	

## 次年度への改善点

### 取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】について

あいさつ運動の実施期間中は、校内のあいさつが活発化し、意識の向上が見られた。しかし、取り組み終了後には、あいさつの頻度が低下する傾向があり、継続的な実践につなげることが課題である。今後は、日常生活の中であいさつを促す仕組みづくりや、他の教育活動と関連付けた取り組みを推進し、定着を目指していきたい。そしてあいさつ運動以外にも、児童が安心して楽しく学校に来ることができる取り組みを進めていくことが必要だと感じる。今年度、児童にアンケートを取っているのので、来年度の取り組みを考えるヒントになればと思う。

### 取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】について

児童アンケート「たてわり班活動でいろいろ活動するのは楽しいですか」の項目において、肯定的な回答の割合が1学期よりさらに向上している。この結果により、来年度も異学年交流の機会を積極的に設け、児童同士の関わりを一層活発にしていく。そして、特に高学年の児童には自尊心や自己肯定感を高められるようにしていくことが大切。

### 取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】について

一部の児童において、「死ね」「きもい」など相手を傷つける暴言が聞くことがある。相手の立場や気持ちを十分に考えられず、感情のままに言葉を発してしまう場面があることが課題である。そのために、相手の気持ちを想像し、共感する力を育てる取り組みを計画的に推進する必要がある。来年度は、人権学習の充実、異学年交流の活用、言葉づかいの重点指導、教職員の共通理解と即時対応などを継続的に指導していく。

## 大阪市立平林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>年度目標 ※再掲</p> <p>◎小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる</p> <p>◎小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる</p> <p>◎小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</p> <p>◎小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。</p> <p>◎小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を41%以上にさせる。</p> <p>◎小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○学習活動において、ペアやグループ活動を行い、協働的な学びの充実を図る。</p> <p>○国語科・算数科での基礎的・基本的な学習の充実を図る。</p>	C
<p>指標</p> <p>○令和7年度の校内調査における「友だちの考えがわかる、ペアやグループ別にした授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合85%以上にする。</p> <p>○漢字検定の合格率を72%以上にする。</p> <p>○基本的な計算能力向上を図るため、週に1回以上は、授業や学級活動で計算を行う。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○運動能力の向上を図り、運動の楽しさを実感させる教育活動の充実を図る。クラスで外遊びの日を設けたり、遊具・器具の使い方を工夫したりすることで運動の楽しさを実感できるようにする。</p> <p>○なわとび週間・かけ足週間を行うことで、基礎的な体力の向上を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康で安全な生活習慣を身につけさせる。そのために、手洗いがんばり週間のチェックカード、保健指導を通して、健康や衛生面の意識向上や正しい知識を学ばせる。</li> <li>○食に関する指導の充実に取り組み、食への興味・関心を高められるようにする。</li> </ul>	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手洗いがんばり週間を年3回行い、「保健だより」等を年10回以上配布する。</li> <li>○栄養教諭による食育指導を各学年で年間2回行い、「食育だより」を年10回以上配布し、食に関する指導を行うことで、食への関心を高める。</li> <li>○令和7年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>【年度目標の達成状況】</b></p> <p><b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>基礎的な学力の定着を図る取り組みとして、スタサプやデジタルドリルなどタブレットを活用した学習を行ったことで、自主的に課題に取り組む姿勢が見られるようになり、基礎的な学習の充実につながった。その一方で、漢字検定の合格率では60%と目標数値を下回り課題が残る結果となった。協働的な学びにおいては、一部の授業においてペア・グループ学習を導入することで、児童アンケートにおける「友だちの考えがわかる、ペアやグループ別にした授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が90.5%に達した。</p> <p>協働的な学びに関する指導や実践はそれぞれの学級で偏りがあることが課題であるため、学校全体で取り組みの質の向上を図っていく必要がある。</p> <p><b>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b></p> <p>各学級において外遊びの機会確保に努めてきたことや一輪車や竹馬などの遊具の更新、修繕を進めたことで、休み時間に外へ出て遊ぶ児童が増加し、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目で最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が70.2%で目標を上回った。その一方、学校全体での運動能力の向上を図る取り組みとしては、外遊びをする児童の偏りや遊具の老朽化などの課題解消には至っていない。</p> <p>児童が安心して楽しく外遊びができる取り組みや環境の整備を今後も進めていく必要がある。</p> <p><b>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b></p> <p>計画に基づき、各学級において実態に合わせた給食指導や食に関する指導を行った。しかし、児童アンケート「すききらいせずに食べている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が中間評価では91%だったところ、最終評価では、79.6%と目標数値を大きく下回る結果となった。給食の残食率は改善しているものの、児童の内発的な意欲の変容を促す指導が課題として残った。</p> <p>健康で安全な生活習慣については、委員会活動を通じて手洗い週間や清潔検査を実施したことで手洗いや清潔の保持の重要性について、児童への意識付けを一定程度図ることができた。</p> <p>しかし、学校全体として児童全員に一貫した習慣として定着させるには至っていないため、単発的な活動だけでなく、継続的な観察や細やかな声掛けを行い、学校全体として児童に望ましい生活習慣の定着を図っていく必要がある。</p>

**取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】**

基礎学力の確実な定着に向け、タブレットの効果的な活用を軸とした個別最適な学びを推進する。また、「対話の質」や「協働の深まり」における指導力の向上を目指し、実践事例の共有や校内研修の充実を図る。

**取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】**

縦割り活動の時間などを利用して、上級生が下級生に外遊びや正しい遊具の使い方などを教える機会を設け、外遊びの楽しさを体感させる機会を意図的に設ける。そして、遊具の更新や修繕を継続し、児童が新しい遊びに挑戦できる安心安全な環境を整える。

**取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】**

「献立クイズ」、「給食がんばりカード」など、食への感謝や関心を高めるような取り組みを進め、児童の「意識向上」に焦点を当てた動機づけを行う。

## 大阪市立平林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>学校の年度目標</b> ※再掲</p> <p>◎授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕</p> <p>◎年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を95%以上にする。</p> <p>○学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施する。</p> <p>○令和7年度末の保護者校内調査における「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。また、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を96%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○デジタルドリルの定期的な活用を図り、各教科の学習内容の習熟を深める。</p> <p>○デジタル教材を活用した朝学習、学習者用端末を活用した家庭学習、協働学習支援ツールを用いた学習を実施する。</p> <p>○授業を分かりやすくするため、学習活動でのICT機器の有効活用を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>○学習者用端末を家庭に持ち帰ったときや、学習中に生じた隙間時間にデジタルドリルを週1回以上活用して、各教科の習熟を図る。</p> <p>○デジタル教材を活用した朝学習を週1回実施する。学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。協働学習支援ツールを用いた学習を週1回実施する。</p> <p>○ICT機器を利用した授業を週3回以上行い、令和7年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○校内研修を年間5本以上行い、教職員の指導力の育成を図る。</p> <p>○業務を分担して円滑に進められるよう取り組み、ゆとりの日を活用するなど、時間外勤務を減らす。</p>	B

<p>指標</p> <p>○令和7年度末の教職員アンケートにおける、「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を80%以上にする。</p> <p>○週に1度、ゆとりの日に定時退勤を心掛け健全なワークライフバランスをとる。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○図書館の有効活用を図り、休み時間に実施している図書館開放を継続して行う。</p> <p>○図書新聞委員会が本の紹介を行い、図書室の本や新聞に触れ合う機会を増やす。</p> <p>○体験的学習や外部人材の積極的活用を行い本物に触れる機会を増やす。</p>	
<p>指標</p> <p>○委員会活動による本や新聞を活用した取り組みを行い、本や新聞に触れ合う機会を学期に1回以上行う。</p> <p>○「読書ノート」を活用し、年間50冊以上の達成者の数を30人以上にする。</p> <p>○外部人材を活用した授業を、学年で年1回以上行う。</p>	C
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <p>○地域と保護者を交えた学校行事を行い、地域と家庭の連携を深める。</p> <p>○学校だよりや学校ホームページを積極的に活用し、学校生活の様子を発信していくことで、家庭と学校の連携を深める。</p>	
<p>指標</p> <p>○年に3回以上、地域や保護者を交えた学校行事を行う。</p> <p>○各学年、月1回は学校HPに記事をアップする。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。</p>	C

<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>
<p><b>【年度目標の達成状況】</b></p> <p><b>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</b></p> <p>学習者用端末を家に持ち帰らせ、学習の内容の復習としてスタディサプリを週に2回以上課題として配信をした。また、学校での学習においても子ども一人ひとりの学習内容の定着に合わせた課題をスタディサプリや、Navimaで行った。復習を大切にすることで、児童に向けた学校アンケート「学校の授業はわかりやすい」の項目で89.2%を達成した。しかしながら目標ポイント90.0%から0.8%下回る結果となった。</p> <p><b>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p>校内研修は、「救急救命講習」「不祥事撲滅研修」「ICT機器活用研修」「英語指導力向上研修」や「校内研究授業・討議会」、若手を中心とした「メンター研修」などを行った。教職員アンケート「校内研修の実施計画を整備するなど、組織的継続的な研修」の項目では、81.8%となった。</p> <p>ゆとりの日を週に1回設けることで、時間外勤務削減への意識付けができていたが、課題解決のための時間が増え、時間外勤務削減が行いにくい環境となった。</p> <p><b>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</b></p> <p>図書新聞委員会が毎日のお昼休みに図書室を開放することで、子どもたちはいつでも本に触れられる環境を整えた。しかしながら、開放での図書室の過ごし方の指導や、読書ノートの記入の仕方についても工夫をし、子どもたちが読書に関心を持てる機会を増やす必要があった。</p>

また、体験的な学習では、「田植え・稲刈り体験」, 「車いす体験」などを行い, 2学期には「関西電力の出前授業」「トップアスリート夢授業」や「防災訓練」「ミニコンサート」, 3学期には「キッズニア甲子園」, 「琴・楽器体験」「お茶会」「モルック体験」など地域と保護者を交えた行事も行うことができた。栄養指導を全学年2回行い, 食育についても進めることができた。

#### **取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】**

平林福祉会館で育てている「サクランボ」「ビワ」の収穫体験を行い, 地域を交えた取り組みを行ってきた。また, 2学期には「防災訓練」, 3学期には「お茶会」「モルック体験」など地域と保護者を交えた行事を行った。保護者に向けた学校アンケート「家庭・地域と連携した取り組み」についての項目では95.5%を達成した。

また, ホームページでは, 行事や給食の献立など, 学校の様子が分かる記事をアップしてきた。特に, ミマモルメのメール配信と組み合わせることで, 保護者や地域に学校の情報をくまなく発信することができた。保護者に向けたアンケート「学校は, 教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目では89.0%となり, 目標ポイントより6.0%下回った。さらに担任外も発信することで, 保護者はより多く学校の様子を知ることができると思われる。

### 次年度への改善点

#### **取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】**

授業外の一人一台端末の使い方をしっかり決める必要がある。また, 大画面で教科書を映しているのに, 子どもたちは机の上の教科書を見なくなってきており, 自分で読んで理解する経験が乏しくなっている。スタディサプリの課題の配信を週二回行っているが, その結果がうまく活かせていないことがある。次年度はNavimaをうまく活用したい。

#### **取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】**

数人に業務が集中しており, 業務を分担する必要がある。またそれぞれが抱えている業務を見直し, 転勤などでの引き継ぎのためにマニュアルを作成することも必要である。これらにより, 長期的には一人ひとりの時間外勤務削減ができると考える。

#### **取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】**

読書ノートの活用の仕方を工夫する必要がある。タイトルと, 自分が感じた面白さを簡単に表現できるような単純な構成にする(記号や数字を用いる)。これにより気軽に読書記録を行えるようになることを考える。また, 教員のおすすめの本紹介を取り入れてもよいと思われる。

時数の大幅超過の見直しがあるため, 出前授業や体験活動の削減が求められる。活動の精選をし, 授業時数の確保を行い学習内容の定着を図る。

#### **取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】**

学年だより, 学校だよりにより月中行事予定をのせているので, 一つにまとめた方がよいと思われる。学年だよりには教育内容に絞って掲載し, 学校だよりは学校の方針を中心に伝えていく。

保護者に向けたお手紙を「ミマモルメメール」のみで行いたい, 未登録がいるので登録を促していく必要がある。また, HPには日々の活動内容や直近の連絡事項などを載せているので, こちらも活用を促していく。